

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2024/06/13

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	36.66	-0.07
JPY/THB	0.2339	0.0001
USD/JPY	156.72	-0.41
EUR/THB	39.65	0.20
EUR/USD	1.0809	0.0068
USD/CNH	7.263	-0.009
SGD/THB	27.22	0.07
AUD/THB	24.42	0.16
USD/INR	83.54	-0.03
USD Index	104.65	-0.59

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.519	0.002
10Y (THB)	2.782	-0.003
5Y (USD)	4.316	-0.102
10Y (USD)	4.316	-0.088

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,336.0	28.5
WTI (Oil)	78.50	0.6
Copper	9,944.5	185.5

Stock

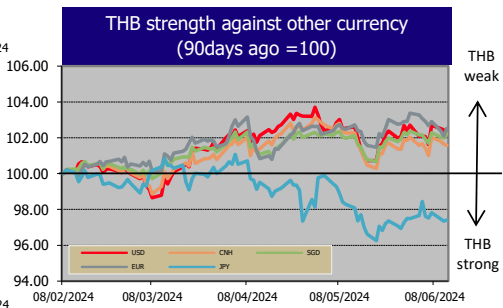
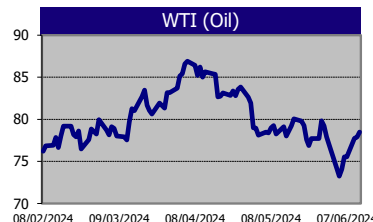
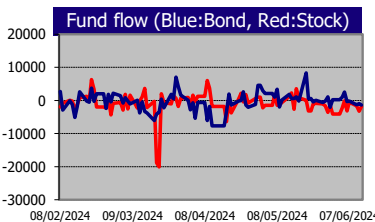
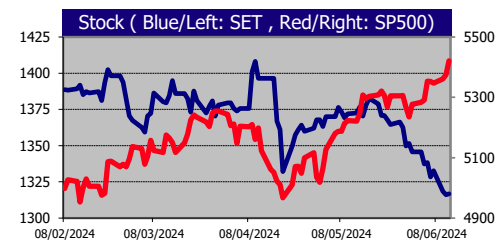
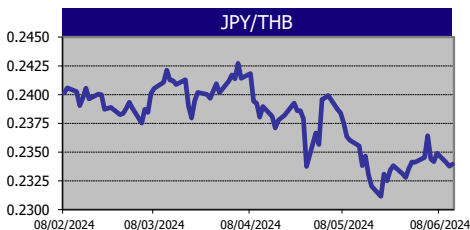
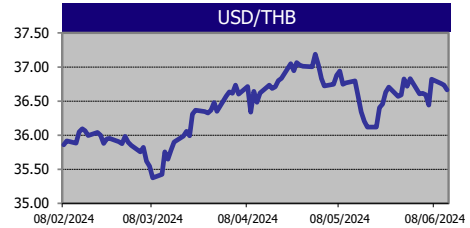
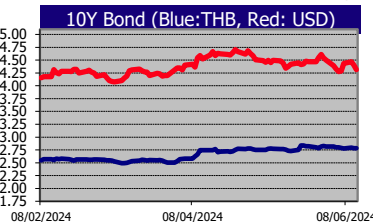
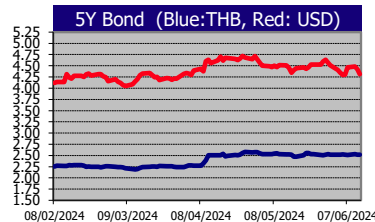
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,316.69	0.59
NIKKEI (JP)	38,876.71	-258.08
DOW (US)	38,712.21	-35.21
S&P500 (US)	5,421.03	45.71
SHCOMP (CN)	3,037.47	9.42
DAX(GER)	18,630.86	260.92

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	(1,816)	1392.8
Bond net flow	(1,346)	-395.5

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・昨日のドルパーツは海外時間のイベントを経て下に往ってこの展開。36パーツ台後半で取引を開始すると、タイ中銀による金融政策委員会(MPC)、米5月CPI、及びFOMCの結果公表を控え、同水準で小動き。バンコク時間午後、タイ中銀MPCでは市場予想通り政策金利据え置きが決定されるも、金利据え置きについて直近2会合では2人が反対を示していたところ、今回は1人の反対票に留まっていたこともあってか、会合後はややパーツ高、金利上昇で反応。海外時間に入り、注目の米5月CPIはヘッドライン・コアともに前月比、前年比で市場予想を下回っていることが確認され、ドル売りが進行。ドルパーツは36パーツ台半ば付近まで急落した。続いて結果が公表されたFOMCでは、政策金利は市場予想通り据え置きが決定された一方で、注目されたドットチャートにおけるメンバーの予測中央値では、今年の利下げが3回から1回に修正されたことが確認された。パウエルFRB議長の会見においても「金利がパンデミック前の水準まで下がる可能性は低い」との見方が広まりつつある」旨が言及されたこともあってか、ドルが急速に買い戻され、結局CPI発表前の水準まで戻し、36.66レベルで引けた。

●ドル円その他

・昨日のドル円は下落。157円台前半で取引を開始。海外時間に重要イベントを控える中、小幅な値動きでの推移が継続。海外時間、弱い米5月CPIを受けて155円台後半まで急落。FOMCの結果を受けてドルの買い戻しが入ったものの、ドル円についてはCPI発表前の水準まで戻すには至らず、156.72レベルでクローズを迎えた。

Bangkok Dealer's Eye

昨日は注目イベント目白押しだったものの、円相場、パーツ相場ともにその水準を大きく変える展開とはならなかった。まず、タイで開催されたMPCでは、政策金利の据え置きが決定され、票割れは前回の5:2から6:1と利下げ派が一人減ったものの、経済見通しやインフレ認識は前回からほぼ変わらずで、総じてサプライズはなかった。その後米国時間朝方に発表された米5月CPIは、予想を下回る結果となり、市場はドル売りに反応。当該指標結果を受け、直前まで年内1.5回とされていたスワップ市場の利下げ織り込み度が2回となった状態で迎えたFOMCでは、予想通り政策金利は据え置かれたものの、ドットチャートの予測中央値が年内1回の利下げを示したことがタカ派と捉えられ、市場はドル買いに反転。他方、その後のパウエル議長会見で政策柔軟性が強調されたことはハト派と受け止められ、結局のところ為替相場は一連のイベント前に比べ若干のドル安レベルで落ち着いている。次の主要イベントは本日から明日にかけての日銀政策決定会合となるが、恒例のリーク記事が出始めたこともあり、国債買入の減額はほぼ織り込まれてしまった状況。7月利上げに関するヒントが出るとの予想も増える中、タカ派寄りのサプライズは期待しにくい。円安を警戒する日本当局にとってはせっかくの追い風地合いではあるものの、日銀イベント通過後は材料出尽くしを背景とした円売りを警戒しておきたい。(吉田)